

製品名: Rho GDI α (リン酸化 Ser174) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05369**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	ARHGDI A
別名	ARHGDI A; GDIA1; Rho GDP-dissociation inhibitor 1; Rho GDI 1; Rho-GDI alpha
遺伝子 ID	396.0
SwissProt ID	P52565
免疫原	抗血清は、ヒト ARHGDI A の Ser174 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 140-189

背景

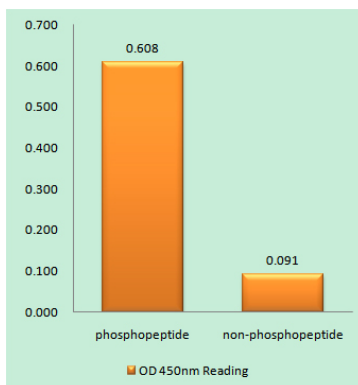
この遺伝子は、Rho GTPase を介したシグナル伝達の制御において重要な役割を果たすタンパク質をコードしています。コードされて

いるタンパク質は、RhoファミリーメンバーとGDP（グアニン二リン酸）の解離を阻害し、これらの因子を不活性状態に維持します。このタンパク質の活性は様々な細胞プロセスにおいて重要であり、腫瘍においてはこの遺伝子の発現が変化する可能性があります。この遺伝子の変異は、ネフローゼ症候群8型患者において発見されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2014年7月]機能: Rhoタンパク質からのGDPの解離とそれに続くGTPの結合を阻害することにより、Rhoタンパク質のGDP/GTP交換反応を制御します。類似性: RhoGDIファミリーに属します。サブユニット: モノマー。

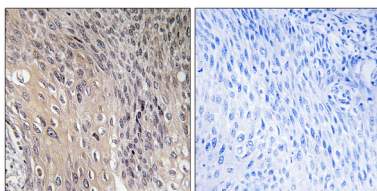
研究分野

神経栄養因子;

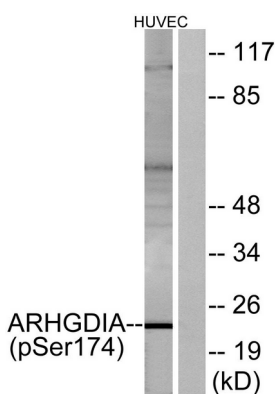
画像データ



ARHGDI A (リン酸化 Ser174) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ARHGDI A (リン酸化 Ser174) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30μL で処理した HUVEC 細胞ライセートの ARHGDI A (リン酸化 Ser174) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。